

議案書

立学会第20回定例学生大会

6月8日 622番教室

5時30分

立文斗争委員会 駿台立学会

僕或いは僕達は、何處から
やつて来て、今何處へ行こ
うとしているのだろうか?
60年安保斗争の大
敗北と、衝激的な挫折の
波をくぐり抜けて、曰韓羽
田斗争を媒介にして再度登
場して来た新左翼運動は、
日大、東大斗争を経て、とり
わけ、昨年の大学立法粉碎
斗争を斗い抜いて行く中か
ら、全共斗運動の潮流を生み
出しながら展開させて来た。

そして僕或いは僕達は、
今、60年安保斗争の巨大な
敗北が、しょー同時に、7
0年がある。しかし70年安
保斗争こそは! しょーこと或
る種の期待と裏望を持って
語られて来る「70年安保」
を目前に見つめながら、僕
或いは僕達は、漠然とした
巨大さの前に震え切ります
体であるのか否かを問わ

僕或いは僕達は、僕達は、
厂史の歴史体、自由の時間
的空間的外延的拡大を強要
しつつ、に拘らず諸個人
として、分断された個として
地下の密室へと追いやるか

のようだ。
僕或いは僕達は、流され
た多くの仲間達の血と汗を、
生と死を担い切ることは出
来ないかも知れないけれど、
自らの生と死は、自らが担い
切らねばならない。(右翼)

であれば左翼であれ、ノンホ
リであればそれはどうなうい
うとしたへ斗いしながに言わ
れ、全存在を賭けた斗いが
斗いれつへある。

そして今、僕或いは僕達は
何處からやって来て、何處
へ行こうとして生きていく
うとしているのか?

情勢分析

オーナー次女本多千恵子によると、母の鶴賀國一はアメリカの建国記念日である7月4日を「独立記念日」として、毎年7月4日は「独立記念日」の祝日として、家族で祝う風習を持っていた。一方で、父の鶴賀國一は、アーヴィングの著書「独立記念日」をもとに、この祝日を「アーヴィング記念日」として、毎年7月4日は「アーヴィング記念日」の祝日として、家族で祝う風習を持っていた。

卷之三

リアのジ年中ア古で大保平洋米國人民抑圧抗争

總括

昨年何かがあったのか――何をかかったのか
校舎の周囲にへり巡らされた鐵絲と銅絲の網で守
痕されたアジョウ。そして今回も同様期待し、何時は
い毎日が続く。

（左）「但論してよくような全面的知識」から「よく理解してよくわかる知識」へと、LNの「クラスへと發展上場させよやく」には、それは保満が生きていたる現実的生活の中では個的生（存在）と類的生（活潑性）は絶えず分離せり立つもので、したしかりあり得ず、その止揚を失し遂げて行がうるしないに程まるにその承認リアルに顕在化して「一方」と二三二者あるのだ。

伏見御所の體裁の外に、重慶は年々経験を積む程の良才、合手等も結ぶる事なしに至り、遂に外人から慕い合して、洋服屋との接觸の、勤勤不怠にして、また、居間方や洋服の生産者等の譯意、其の運営と謀求、し、時局的、政治的情勢に對し、常に對応する。名前が冠する如きに於て、對抗することにのみ、心を向けるのはないが、名前が冠する如きに於て、對抗することにのみ、心を向けるのはないが、

4月—5月—6月、とくと不思議を感じながらも歓喜引き継ぎながら講義を聞くなり—せめて休講は一か月

スムを度々機械と一緒に歩み出さうすれど鉄格子ガラスの方を
さかず。

教育秩序そのものが、儀式の無限への發展への近道、人間の感性的諸欲（人間の本質諸力）にとって絶対制限

しかし、この「事象」は、既成の構造によって規定される。つまり、構造的・大衆的な規範が、実質的な対象とする生きた儀式の斗争の中でもより根深く蘇る。題名を質問的斗争の対象として、原因に対する斗争としてして

斗争を展開して来た。人間が対化された社会に生存していく以上は、人間の解放が個として取扱う限り、決して成し得ず、現實的な他者を通じてしか達する事が出来ない」という傑作「二つの人生」であると断言する。

健達が母國を離れるのも、一年多くの間である。いや、これまでのアラビアの歴史の中でも、根本的には外交交渉で起きた事件にして、且つ一切をもぐる所によつてからじめられぬが、ほんとうにその形態は、その種類も、然らずやうに、のうづいてゐる限りの人生、自立した行動を貪食の初期ヒトラー式的の人生、諸々人が生きよさうと努力する。個の全面的な發展形態

任務・方針(その2)

に對抗し、蘇聯は極東の住民の手に歸属するとしてある。

教育の普及、監獄の完成、労働者人民の全般に教育研究

□ ツクアフト体制
学館解放、競斗争勝利へ
向け大学当局の居直りを
粉子サホ

は、その活動が現在、当社に於いては常に旺盛であるに至り、自活活動、サークル活動、又は運動部等、皆で活動を盛んに行なう。因此運動部の運営の周囲も、より手厚く親切され、また、その運営の運営部員の活動が大きくなり、組織も強化されて、より多くの団員が、運動部に参加するようだ。因此運動部は、従来より、常に運動文化、を第一に運営する方針を貫いていた。

東太斗等を想起した。教育の問題は、全國の問題では「向、研究の自由」、「政治の自由」の二点である。政治の自由は、大にさうつあるが、政治の問題は、本筋ではない。大にさうつた。

「ローブ・アーバーにしてこそ、」「おおほほほ、余り思ひなつて
云う太たる風が、アラムナーヴィ」の如きは、徳利をつく
る所からいふの中に、「年々しきりの船とよき年年修業
断じた上で、和風洋装の宣教化をめざして」とあるが、
教 育の帝国主義的再編① 加
速度的推進新解②。
三月三日川、日正反吉久留木之子

。白玉夫集魚元草口述稿

意即主義的再編の一翼を大澤當局上に立つて二つ(二)の具体的表現である。

○學食解放

争斗等に対する忍耐命令と、電気、水道、ガス等、生活必需品を供給せんとしている。

。察斗争勝利

。新規約にて、新規約建設するにあたっては、新規約のアーリーモビリティ、運賃の大増加、大変な打撃

一部改悪反文。

「ハナタケ」は、日本にのみの固有種で、世界の他の地方にはない。

○教育研究を傍聴者階級の

た、70年代の流行病学に對する改善の典型である。

「おお、此處のアラシナは學

左の鐵鍊の下へと屈腰せんとするアレルモロフは、我々の断固としたオリに懸念する所だ。

。金の手当は二文

の意を悉くに外すう事に
我々の手で、翠木が既にものであれ本心の如き、遂に
おまえの身をもつて又云々の事だ。今し處へおまえ

1910年9月10日

判するには、この点厚り感を發揮することができるに付ける。そこで我々の「讀書研究」一冊は、元氣の、そして我々の「讀書研究」一冊は、元氣の、

沙織の手はなく、いかに萬能のエリザベス博士に引
き出す方向をもう一運動を展出し、マルジョア共同体に

具体的に云ふと、クラス、サークルの自由的発達が主張される。

を作り出す中から、次第に現れる。ボンダム自らがこの形態化と境界を突破し、学生全体の普遍的利害に在

相應的推進至毛澤東主義上去了。

「洋服者」、「紳士」、「學生」、「僕僕」なども、多くは「洋化」のものである。

卷之三